

ツール



- ① 角度の微調整ができるのが“らくらく君”の売りのひとつ。リヤタイヤと地面の隙間に合わせ、あるいはどの程度差し込みたいかにより、使いやすいポイントに合わせる
- ② タイヤに接触する傾斜面はV字型断面。しかもその角度が絶妙で、タイヤの幅に関係なく、外周面をうまくホールドしてくれる
- ③ 裏面には4カ所に“足”があり、摩擦係数の小さな材質を選ぶことにより、つま先を当てた微妙な位置調整をしやすいしている

吉村誠也

レース/メカニズム/工具関係ライター

'78年からロードレースのメカニックとして全日本や世界GPを転戦。'88年より取材・執筆活動を開始し現在に至る

工具とともに、バイク整備になくはならない各種のスタンド。サイドスタンドしかないのが最近のスポーツバイクの主流だから、とにかくマシンを直立させるためのスタンド(レーシングスタンドと呼ぶことが多い)は必需品である。

ところが、このテのスタンドの多くはスイングアームを支えるから、センタースタンドつきのマシンでセンタースタンドを立てた場合と同じく、リヤホイールが浮き上がる。浮き上がる＝荷重がかかっている。だから、少なくともリヤホイールの脱着は楽にできるはず……のだが、スワッシュは楽にできるはず……のだが、アクスルを抜き始めてから抜き終わるまで(アクスルを差し始めてから差し終わるまで)の間、タイヤ、スプロケット、ダンパーハブ、ブレーキディスクなどを合わせれば、けっこうな重さになるホイールを支えるだけでもひと仕事だからだ。

達人は、つま先をタイヤの下に差し込み、かかとを支点にして高さを調整し、スコップと苦もなくアクスルを抜いたり差ししたりする。頻りにタイヤ交換をするレーシングマシンのスタンドは、こういう作業がしやすい高さに作られている。

ところが、汎用のレーシングスタンドだと、どんなマシンでもうまくいくとは限らない。高さ調整ができないタイプだと、太いタイヤ(扁平率が高い)でも太いタイヤ(扁平率が高くない)でもタイヤと地面(または床面)との隙間が小さくなり、つま先を差し込めなかったり、つま先を差し込んだ場合に、適当な厚さの板切れを置いたり、タイヤの下ではなく、その板切れの端につま先を差し込んだりして、ホイールを支えるために知恵を絞っている人は多い。いろんなマシンを相手にするショップではなく、いつも自分のマシン

を相手にするサンデーメカニックなら、びつたり厚さに加工した板切れを用意するだけで(仮につま先が差し込める隙間があっても)ホイールの脱着がかなり楽になる。

だがそれも、青空設備で地面に凹凸があったり、床面に凹凸があったり少しマシンを停める位置がズレたりするとつまみつかない。

そんなときに重宝するのが、アクティブタイプの“らくらく君”である。つま先の代わりにこれをタイヤの下に差し込めば、つま先を差し込んだ場合よりも上体の自由度が高まり、作業がしやすいのが売り。

らくらく君が手前に出てこないようにつま先を押しさえるとはいえず、変な中腰姿勢から解放され、顔の位置がやや低く、やや後ろ寄りになるため、リヤフェンダーやナンバプレートで顔面をケガする心配もない。

もちろん、つま先とは違い、それ専用で作られた道具であり、接触面はV字型をしており、左右2カ所でタイヤを支持し、底部の4点で地面(床面)と接触するから、つま先を差し込んだ場合よりも安定感が高い。差し込む隙間の大きさ(タイヤの高さ)や差し込む深さを加減できるように、斜面の角度を調整できる機構も備わっている。

らくらく君の使いこなしは、こいつに任せっぱなしにするのではなく、つま先を用いて位置を合わせ、その後もつま先で押さえながら使つというのがポイントである。

結局つま先を使うとはいえず、タイヤの下に差し込んで持ち上げるの、らくらく君を軽く押さえておくだけでは、足の自由度にも大差がある。

ここまで、リヤホイールの脱着を想定して話を進めてきたが、もちろん、フロントにも使用可能である。ただ、フロントの場合、らくらく君を使うかどうかよりも先に、どうや

ホイール脱着時に姿勢を楽にし安全性を高めるクイックリフター

つてフロントタイヤを浮かせるかを真剣に考えたほうが良い。

もともとセンタースタンドを装備しているマシンは、エンジンの下などにバンタグラフジャッキをかけて持ちあげれば良いが、最初に書いたレーシングスタンドでそれをするのは非常に危険である。

L型の金具でスイングアームの下を支えるタイプはもちろん、リヤアクスルの貫通穴にシャフトを通すタイプであっても、危険なことには変わりはない。かといって、サイドスタンド十バンタグラフジャッキは、もつと危険である。

そもそもサイドスタンドというツは、両輪が接地した状態で、マシンが倒れないようにする最小限の荷重を支えるためのものであり、後輪十サイドスタンド十ジャッキの3点で車重を支持した場合の大きな荷重を支えることは想定外だからだ。

やはり、センタースタンドなしの機種でフロントタイヤを浮かす場合は、フロント用レーシングスタンド

で、フロント用レーシングスタンド(ステムシャフト下部に差し込むタイプが一般的)がないと、かなり危険なのである。

で、それを使つたとして、やはり、フロントタイヤの浮き具合を微妙に調整するのは難しい。だからフロントにも、らくらく君の出番はある。まあ、フロントにはチェーンがなくて、アクスルのまわりの障害物も少ないから、リヤほどの有り難みはないかもしれないが、慣れればきつと、次にも使いたくなるはずだ。

らくらく君は、確かに、便利な道具である。しかし、それを安全に使うには、やはりマシンを真っ直ぐ、しっかりと立てるという大前提をおろそかにしてはいけない。

便法として、レーシングスタンド(リヤ)とバンタグラフジャッキを併用したり、サイドスタンド十バンタグラフジャッキを使用するのは、その方法で同じマシンを何度も扱ひ、慣れと自信がある場合を除き、するべきではない。安全は便利さよりも優先して当然である。

本文中に“らくらく君”と書いたが、正式には“タイヤらくらく君”といい、本体には“クイックリフター”というネームプレートが貼られる。厚手の鉄板を使った作りは非常に強固で、重量級のホイールを載せてもビクともしない。裏の足の滑り具合も過不足なく、つま先を軽く押せば、狙いの位置に差し込める。ただし、ストッパーは装備していないので、使用中、つま先を添える必要がある。とはいえ、つま先を差し込むよりは、うんと快適に作業できる。価格は6090円だ

らくらく君が手前に出てこないようにつま先を押しさえるとはいえず、変な中腰姿勢から解放され、顔の位置がやや低く、やや後ろ寄りになるため、リヤフェンダーやナンバプレートで顔面をケガする心配もない。

もちろん、つま先とは違い、それ専用で作られた道具であり、接触面はV字型をしており、左右2カ所でタイヤを支持し、底部の4点で地面(床面)と接触するから、つま先を差し込んだ場合よりも安定感が高い。差し込む隙間の大きさ(タイヤの高さ)や差し込む深さを加減できるように、斜面の角度を調整できる機構も備わっている。

らくらく君が手前に出てこないようにつま先を押しさえるとはいえず、変な中腰姿勢から解放され、顔の位置がやや低く、やや後ろ寄りになるため、リヤフェンダーやナンバプレートで顔面をケガする心配もない。

もちろん、つま先とは違い、それ専用で作られた道具であり、接触面はV字型をしており、左右2カ所でタイヤを支持し、底部の4点で地面(床面)と接触するから、つま先を差し込んだ場合よりも安定感が高い。差し込む隙間の大きさ(タイヤの高さ)や差し込む深さを加減できるように、斜面の角度を調整できる機構も備わっている。



本文中に“らくらく君”と書いたが、正式には“タイヤらくらく君”といい、本体には“クイックリフター”というネームプレートが貼られる。厚手の鉄板を使った作りは非常に強固で、重量級のホイールを載せてもビクともしない。裏の足の滑り具合も過不足なく、つま先を軽く押せば、狙いの位置に差し込める。ただし、ストッパーは装備していないので、使用中、つま先を添える必要がある。とはいえ、つま先を差し込むよりは、うんと快適に作業できる。価格は6090円だ